

MEASURING CUP

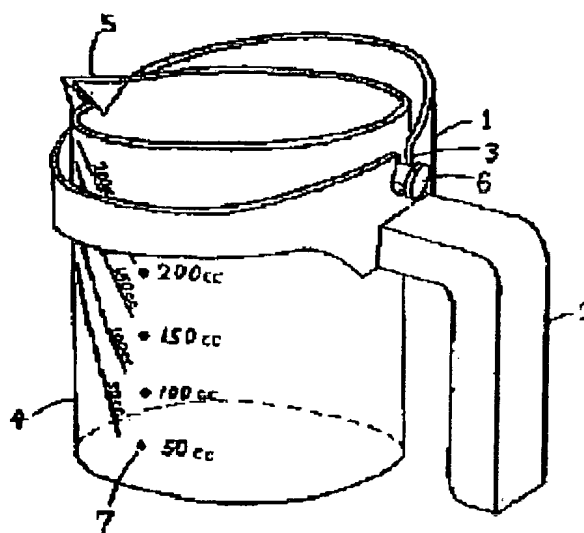
Patent number: JP10253422
Publication date: 1998-09-25
Inventor: SAITO KENJI; SAKAKIBARA CHIHIRO
Applicant: SAITO KENJI;; SAKAKIBARA CHIHIRO
Classification:
- international: G01F19/00
- european:
Application number: JP19970102354 19970313
Priority number(s):

Report a data error here

Abstract of JP10253422

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a measuring cup that eliminates the need for a horizontal table in measuring liquid and enables measurements to be made while discharging liquid.

SOLUTION: A fulcrum is provided at the top of a measuring cup 4 and a handle 2 and the cup 4 are rotatable by means of a ring 1, the cup 4 being cylindrical and having graduations 7 formed by dotting it along the perpendicular direction to its rotation axis. A spout 5 is provided along the direction of the rotation axis, and diagonal lines are drawn radially from the spout 5. The handle 2 is separable from the cup 4 at the fulcrum.



Data supplied from the **esp@cenet** database - Patent Abstracts of Japan

Ref. 10: JP-A-10253422

[Brief Description of Drawings]

Fig. 1 is a schematic view of a measuring cup according to the invention, ..., Fig. 5 is a section view of another example without using the ring 1 in Fig. 1 according to the invention.

Reference Numerals:

3: notch, 6: protrusion, 8: inclined line, 9: shaft.

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-253422

(43)公開日 平成10年(1998) 9月25日

(51)Int.Cl.⁸

識別記号

F I

G 0 1 F 19/00

G 0 1 F 19/00

K

審査請求 未請求 請求項の数3 書面 (全 3 頁)

(21)出願番号 特願平9-102354

(22)出願日 平成9年(1997) 3月13日

(71)出願人 595181025

齋藤 健二

愛知県岡崎市江口2丁目6番地16 メゾン
葵101号室

(71)出願人 597055490

榊原 千尋

愛知県西尾市下矢田町郷109

(72)発明者 齋藤 健二

愛知県岡崎市江口2丁目6番地16 メゾン
葵101号 室

(72)発明者 榊原 千尋

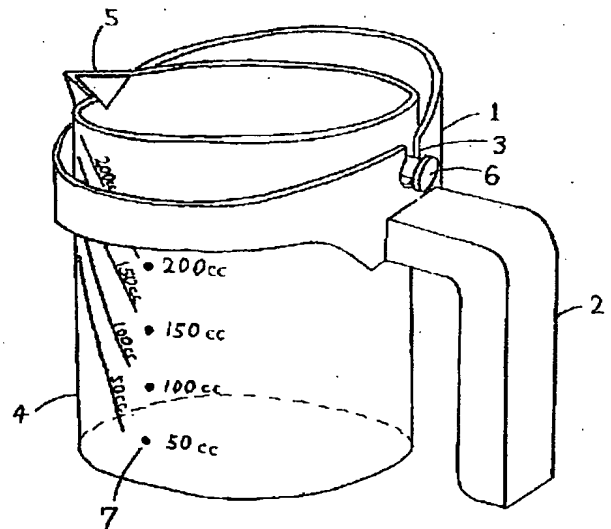
愛知県西尾市下矢田町郷109

(54)【発明の名称】 計量カップ

(57)【要約】

【課題】液体を計量するときに水平台を不要とし、また、液体を排出しながら計量できる計量カップを提供する。

【解決手段】計量カップ上部に支点を設け、リングにより取っ手とカップとが回転できるようにし、またカップは円筒形とし、目盛りは回転軸に対して直角方向に点で入れた。また、注ぎ口を回転軸方向に設け、注ぎ口から放射線状に斜めのラインを記入した。また、取っ手とカップが支点で分離できるようにした。



【特許請求の範囲】

【請求項1】支点を上部に持ち、取っ手とカップとが回転できるようにし、目盛りは回転軸に対して直角方向に点で入れてあるような円筒型のリング付き計量カップ。

【請求項2】注ぎ口を回転軸方向に設け、注ぎ口から放射線状に斜めのラインを記入した請求項1に記載の計量カップ。

【請求項3】取っ手とカップが支点で分離できるようにした請求項1又は2に記載の計量カップ。

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【発明の属する技術分野】本発明は計量カップに関するものである

【0002】

【従来の技術】従来、計量カップはおおよその量の液体を入れてから水平台の上に移動させ、そこで目盛りを読み、少なかったら追加し、多かったら減らすという作業を何回か繰り返さなくてはならなかった。あるいは、水平台上の計量カップに別のカップから少しずつ液体を入れていき目的の量になったところでやめるという作業が必要であった。いずれにしても、水平台が必要であった。したがって、計量カップを手で持ちながら、液体を計量することは不可能であった。また当然、液体を排出しながら計量することも不可能であった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従って、本発明は水平台を不要とし、なおかつ液体を排出しながら計量できる計量カップを提供することを課題とする。

【0004】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するため本発明は、計量カップにおいて支点を上部に設け、取っ手に連結されている楕円形リングとカップとが回転できるようにし、またカップは円筒形とし、目盛りは回転軸に対して直角方向に点で入れた。また、注ぎ口を回転軸方向に設け、注ぎ口から放射線状に斜めのラインを記入した。

【0005】

【発明の実施の形態】図面に基いて詳細に説明する。図1は本発明の斜視図である。楕円形リング1と取っ手2は一体となっていて、楕円形リング1には、取っ手2側とその反対側に溝3がある。カップ4は透明であり、注ぎ口5があり、そのすぐ下と反対側にはそれぞれ突起6がある。また、カップ4は円筒形であり、突起6と直角方向に目盛り7が図1の手前側と、向こう側(図では表れていない)に、点で入れてある。楕円形リング1とカップ4を溝3と突起6ではめ合わせている。楕円形リング1は目盛り7を見やすいように透明なものが良い。図2は楕円形リング1の溝3の詳細図である。上側が狭く、下側が広がっている。そのため図1の突起6がはまり、広い部分で突起6を支点としてカップ4が回転す

ることができ、また、楕円形リング1とカップ4をワンタッチで外したり、はめることが可能となっている。また、上側が狭くなっているため、逆さまにしてもカップ4は楕円形リング1から外れない。外すためには溝3が弾性変形により広がる程度の力を要する。図4はカップ4の側面図である。目盛り7のほか液体を排出しながらの計量のために斜めのライン8をカップ4の両側に書き込んでいる。図5は楕円形リング1を使わない場合の例の断面図である。リングではなく軸9を使用している。

【0006】

【発明の効果】このようにすれば、カップ4が支点を中心にして回転できるので支点回りの水平が出ている。また、回転軸と直角方向に少し傾いてもカップ4が円筒形であり、なおかつ目盛りは回転軸と直角方向に点で入れてあるため、目盛りの分の液体を入れていれば、必ずその点を液面が通る。従って、どのように取っ手2を傾けても必ずその点を液面が通る。(なおカップ4がバケツの様に上が広くて、下が狭い形では液面が同一点を通らないので、カップ4は円筒もしくは角柱の形にする。)従って、手で取っ手2を持ったまま計量することが可能となり、水平台は不要となる。計量カップを手で持ったまま液体を注ぎながら、計量することも可能となる。また、支点回りの水平が出ているので斜めのライン8に液面を合わせれば、液体を排出しながらの計量も可能となり、水平に戻し確認しながら計するという作業が省ける。また、楕円形リング1とカップ4をワンタッチで外したり、はめることができるため、例えば支点部分や楕円形リング1の内側を洗うことが楽にできる。また、楕円形リング1があるので支点を中心としてカップ4が回り過ぎることがないため液体を完全に排出したときにカップ4は少し回るだけである。また、楕円形リング1を採用することによりカップ4の上方には何も無いので液体を注ぐときに邪魔なものは何もない。本計量カップを置く時は、上向き或いは、下向きに置くか、楕円形リング1を使って壁などに掛けておくことも可能である。

【0007】目盛りは必ずしも点でなくても良い。例えば、×印のように中心が分かればよい。

【0008】カップ4は必ずしも円筒形でなくても良い。例えば、角柱のように、傾けた場合その中の液体の液面が必ず1点を通るような形状ならば良い。

【0009】目盛り7と斜めのライン8をカップ4の両側に書き込んでいるが、これは右利き、左利き両方に対応するためであるが、どちらか一方しか使わないならば、一方だけでも良い。

【0010】従来のように水平台を使っても問題はない。

【0011】楕円形リング1を使わなくても、支点を中心としてカップ4が回転できるような構造でも良い。たとえば図5のように軸9を使用すれば、取っ手が少し傾

いても液面は必ず、目盛りの点を通るので水平台は不要となるし、斜めのライン8を記入すれば、液体を排出しながら計量することも可能となる。

【0012】計量カップ以外にも応用できる。例えば、炊飯器の釜を円筒形にし、これを応用すれば重い釜を水平台まで運ぶ手間が省ける。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の斜視図である

【図2】 楕円形リング1の溝3の詳細図である。

【図3】 本発明の平面図である。

【図4】 カップ4の側面図である。

【図5】 楕円形リング1を使わない場合の例の断面図である。

【符号の説明】

1：楕円形リング

2：取っ手

3：溝

4：カップ

5：注ぎ口

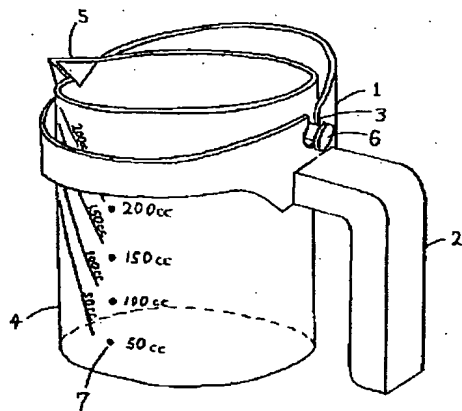
6：突起

7：目盛り

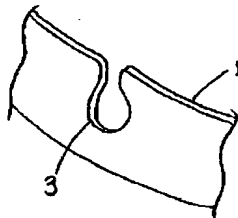
8：斜めのライン

9：軸

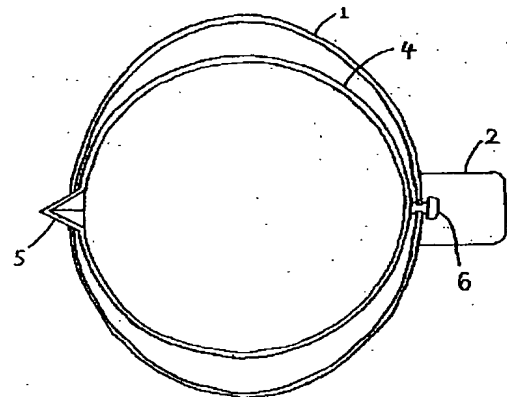
【図1】



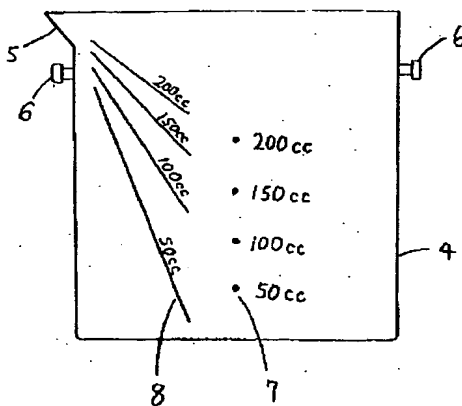
【図2】



【図3】



【図4】



【図5】

